

2-P-9

2-P-10

開口力に関連する口腔機能の検討

金久弥生

東 麻夢可 濱 清華 原 久美子 西村瑠美 深田恵里

【背景】正常な嚥下を完了するためには舌骨の挙上が必要であり、開口筋である舌骨上筋群の筋力が弱まると舌骨や喉頭の挙上量が低下し、食道入口部の開大が障害され誤嚥、咽頭残留のリスクが高まる。また、安全な嚥下のためには咀嚼により食物が粉碎され、唾液と混合された食塊の形成が必要であり、唾液分泌量の低下および減少は食塊形成を阻害する要因の一つであることがこれまでの研究成果により明らかとなっている。しかし、舌骨上筋群の筋力と安静時唾液が相互にどのような関連性を持っているかに関する検討はこれまでなされていない。

【目的】本研究の目的は、舌骨上筋群の筋力（開口力）と安静時唾液分泌量との関連性における相互関連性の検討・構築とする。

【方法】口腔保健学科 2016 年度生のうち本研究協力に同意の得られた 63 名に対し、(1) 開口力、(2) 安静時唾液分泌量、(3) 握力の測定を実施した。

【分析・検討内容】(1) 開口力、(2) 安静時唾液分泌量、(3) 握力の測定結果をもとに、開口力と安静時唾液分泌量の関連や開口力の差による唾液分泌量の違い等の分析・検討などを実施した結果を報告する。